

## 「全鍍連」 2025年 4月号 理事長のよこがお

富山県鍍金工業組合 理事長 梅田 雄一郎 (株)ユニゾーン 代表取締役社長)

「プロレス沼」



2025年1月第2期トランプ政権が始動しました。プロレス団体「WWE」の元最高経営責任者（CEO）で政権1期目に中小企業局長を務めたリンダ・マクマホン氏を教育長官に就任しました。

なぜ唐突にこの書き出しなのか、何を隠そう私の趣味はプロレスだからです。今回は恥ずかしながら私の趣味の話題にお付き合いいただければ幸いです。

私は子供の頃からプロレスを見続けていますが、興味のない一般の人々からは「あんなの八百長だろ」とバツサリ否定されるのがずっと劣等感となり、いい年した大人がプロレスなどと、なかなか人に言うのも気恥ずかしく、こんなもの好きでいいんだらうか？という想いをもち続けて、早40年以上が過ぎました。

実際、自分自身でもプロレスの胡散臭さとか、いかがわしさというものは十分わかっているつもりですが、そこがまた魅力のひとつでもあり、そこでは予定調和の揺るぎない様式美がありつつも、辿ってきたキャリアや物語が違う各々のレスラー達が、彼らもまた人間なので台本にはない心情というアドリブを差し込んできます。特にプロレスというものは、結果に重きを置くスポーツとは微妙に違いますから、ファンにとっては勝敗だけでないレスラーのたたずまいや動きから、キャリア人生を回想してみたり、この試合で何を感じたか、自分たちはこう見たぞと語り合うのが面白い。更には過去のデータにも非常にこだわり、この試合の意味は10年前見た試合と同じだぞとか、この抗争は過去のリメイクだなとか。時には試合そのものよりも、やはりプロレス各団体もしがらみとかあるでしょうから、興行論まで考察したりと、もはや妄想(笑)、自分が勝手に想像力を駆使して楽しめるといいますか、この裏はどうなっているんだらう？とか。これはどこまでが段取りなんだらうか？等、真相を知りたい、それについて友人と語りたい、これがプロレス沼でして。私もどっぷりはまった一人です。

プロレスに関する雑誌・書籍はこれまで1000冊以上読んできましたが、最近あらためて目に留まった一文で、「大人になればなるほどジャイアント馬場が沁みる」というのがありました。確かに、私にもじつは1984年全日本プロレス富山市体育館大会にて、当時10歳の梅田少年(私)と馬場さんの深い思い出エピソードがあります。ご関心ある方はぜひ全鍍連等でお声をかけてください。

最後に、いまだにプロレスが何かと問われても、これですと言いきれない事のほうが多い気がします。

乱文で読みづらく失礼しました。